

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	薬理学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	川原 一仁	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>疾病の治療に使用する医薬品について、科学的基盤にもとづいた考え方ができるよう、薬の作用メカニズムを薬理学的に解説します。また過去の薬の開発の経緯と、新薬開発の重要な視点について学びます。各種医薬品の種類とその役割を理解し、医薬品の適性使用・安全対策ができるようになるよう解説します。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>学期末テストと小テスト、出席状況による。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③;医学書院</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>教科書を事前に読んでおくとともに、授業内容に関連した自分の興味のある項目を、図書館などの本で調べて「自分ノート」を作るなどし、予習や復習の習慣をつける事を期待します。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>各回の授業には必ず、是非伝えたい重要な知識や、薬の安全性に関する注意点などがあるので留意してください。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医薬品とは、医薬品の起源と現在の医薬品の主流について学ぶことができる			指定した教科書を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	過去数千年にわたって、人類が追い求めてきたくすり(薬)とは何か。生命を救う毒として、また有効で安全なくすりとしてその本質をどうから始め、薬の開発で安全のプロセスについて学ぶ。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬の吸収から排泄までを学ぶことができる			指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。小テストの予定、復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	薬の投与から、吸収、分布、代謝、排泄を経る。薬の一生について解説する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬の作用メカニズムを理解するために薬物受容体について学ぶことができる			指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生体に投与された薬の作用点のひとつの薬物受容体(レセプター)とは何かを解説する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経の仕組みと働き、神経伝達物質を知り、理解することができる			指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。小テストの予定、復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	神経系としての中樞神経、末梢神経の働きを学び、神経伝達物質の種類とその働き神経系疾患との関連を学習する			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神・神経用薬1:不眠症、ナルコレプシーのくすりを知り、理解することができる			指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	不眠症、ナルコレプシーの発生の原因を解説、使用される薬の効く仕組みを学習する。			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神・神経系用薬2: てんかん、ひきつけ、パーキンソン病等の、筋肉の緊張をゆるめるくすりを知り、理解することができる		指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定 筋肉の収縮、弛緩のメカニズムを理解し、弛緩薬の効く仕組みを学習するとともに、その種類と使い方を学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 感覚器系治療薬1: 目の病気のくすりを知り、理解することができる		指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定 目の病気の種類と、発症の原因を学び、それぞれに対応する薬の種類と使い方を学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 感覚器系治療薬2: 耳の病気のくすり、鼻の病気のくすりを知り、理解することができる		指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。小テストの予定、復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定 耳と鼻の病気の種類と、発症の原因を学び、それぞれに対応する薬の種類と使い方を学ぶ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 循環器系用薬1: 心不全のくすり、狭心症のくすりを知り、理解することができる		指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定 心不全、狭心症の発症の原因を知った上で、対応する薬物の種類と使い方を学ぶ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 循環器系用薬2: 不整脈の薬を知り、理解することができる		指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。小テストの予定、復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定 不整脈の発症の原因を明らかにし、対応する薬物の種類と使い方を学ぶ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 循環器系用薬3: 高血圧症のくすりを知り、理解することができる		指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定 高血圧症の発症の原因を明らかにし、対応する薬物の種類と使い方を学ぶ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 循環器系用薬4: 利尿薬の種類を知り、理解することができる		指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。小テストの予定、復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定 高血圧、各種浮腫に使われる利尿薬の作用機序を学び、利尿薬の種類と使い方を学習する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 血液系用薬1: 出血を抑えるくすりを知り、理解することができる		指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定 血液の凝固のメカニズムを知り、止血薬の作用機序、種類、使い方を学ぶ		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 血液系用薬2: 血栓を防ぐくすりを知り、理解することができる		指定した教科書、および配布したプリントを事前に読んでおくこと。小テストの予定、復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定 血液の凝固のメカニズムを知り、血栓防止薬の作用機構、種類、使い方を学ぶ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 今までの総復習を行い、医薬品の専門家として薬業界で活躍する人材になる一歩を踏み出すことができる。		
		各コマにおける授業予定 今までの総復習とその解説		